

「第2次スマートウェルネスあさひかわプラン」の策定について

「第2次スマートウェルネスあさひかわプラン」について、次のとおり、プラン案について意見提出
手続（パブリックコメント）を実施するとともに、市政アドバイザーである宇都宮啓氏の助言を受けた。
パブリックコメントの意見及び市政アドバイザーの助言をプラン案に反映し、プランを策定したことから報告する。

1 意見提出手続（パブリックコメント）

(1) 実施期間

令和7年12月24日（水）～令和8年1月30日（金）（約1ヶ月）

(2) 意見提出者数

個人：4 団体：1

(3) 意見数

5件

寄せられた意見及び意見に対する市の考え方については、別紙のとおり。

(4) 意見への対応について

回答一覧を作成し、意見の提出者へ送付するとともに、配布場所と同じ場所に据え置き、市ホームページで公表した。

また、提出のあった意見を参考として記述内容の一部を修正した。取組等に対する意見については、今後のプラン推進の際の参考とする。

2 市政アドバイザーの助言

市政アドバイザーの宇都宮啓氏に助言いただき、プラン案について次のとおり修正した。

【助言とプランへの反映について】

該当箇所	助言	プランへの反映
● プランの構成について		
第2章 現状と課題	<ul style="list-style-type: none">・現状→達成状況の順で掲載されているが、何をもって達成してきたかが分からないと思う。・達成状況→これまでの取組の順で掲載されているが、通常は逆ではないか。・これまでの取組→達成状況→改善方法というように、PDCAサイクルの順にした方がよい。	<ul style="list-style-type: none">・第2章の構成を修正し、現状→これまでの取組→指標の達成状況→課題→今後の方向性としました。 【該当ページ】 P.5~P.23

これまでの主な取組 プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・第1次プランから第2次プランの取組の表現が変わっているが、変えた経緯が分からない。継続性が分かるようにした方が良い。 ・歩くこと（ウォーキング）の取組を継続していくのであれば、記載を落とす必要はないのではないか。記載がないことで、歩くことをやめて違うことをすると捉えられてしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・取組を変更した経緯が分かるよう図を加えました。 【該当ページ】 P.25 ・ひとの健幸づくりの取組「活動量増加のための取組の推進」に「歩いて外出することを積極的に推進する」ことを追記しました。 【該当ページ】 P.28
● 掲載内容について		
健康寿命	<ul style="list-style-type: none"> ・国が出している健康寿命はこれではないため、健康寿命と言い切ってよいのか。国との定義の違いを説明した方がよい。 ・要介護を使った算出では、不健康期間が1～2年となり、あまり変わらないと捉えられるかもしれない。 ・道や国との比較について、単年ではなく、要介護認定者数のように年次推移として大きく出してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康寿命の算出方法についての説明を追記しました。 【該当ページ】 P.10 ・国・北海道との比較（年次推移）のグラフを掲載しました。 【該当ページ】 P.10
市民アンケート結果	<ul style="list-style-type: none"> ・年代別の数値も示して分析してはどうか。年齢と男女別に分析すると、ターゲットが明確になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのグラフに、男女別・年代別のグラフを掲載しました。 【該当ページ】 P.11～
平均寿命と健康寿命	<ul style="list-style-type: none"> ・平均余命の記載について、0歳の平均余命であれば、平均寿命と記載して問題ないのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平均寿命の説明を加え、平均余命の記載を平均寿命に修正しました。 【該当ページ】 P.9
平均歩数	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢によって何歩歩いているかが大事であり、第3次健康日本21では、目標値を年齢（65歳以上、65歳未満）で分けて表示している。 ・国の目標値と旭川市の現状地との比較を年代別や65歳以上未満で分けてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平均歩数のグラフ掲載を3指標（目標）の達成状況（2）目標に集約し、全体の歩数分布のほか、65歳以上、65歳未満での歩数分布のグラフを掲載しました。 【該当ページ】 P.18～19
プロジェクトと評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・各事業をやってその評価がP.27の評価指標になっているが、評価指標が少ない。取組が評価指標にどのようにつながるのかわかりにくい。何をすることによって、どの評価指標が高まるのかわかるようにした方がよい。 ・取組に数値目標があるとC（チェック）ができて、次につながる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・取組と評価指標について、関連が分かるよう図を追加 【該当ページ】 P.33 ・取組ごとの数値目標については、関連する個別計画ごとに指標を設定しており、計画の終期が異なるため、本プランに合わせて新たな数値目標の設定が困難であることから、

	・全部は難しいと思うが、数値目標等入れられるものは入れる形にできるとよい。	次期プランに向けての課題とします。
フレイル	・フレイルについての記載がない。人とつながることはフレイル予防に効果的である。	・4 課題・つながりの強化の中にフレイルの記載を加え、高齢者の交流の機会についてグラフを追加しました。 【該当ページ】 P.20~21
●その他（今後に向けて）		
<ul style="list-style-type: none"> ・プラン全体としては、まとまっているという印象を受けた。 ・健康寿命については、国の国民生活基礎調査のように、市で独自調査する方法も今後検討してもよいのではないかと。 ・プランの方向性として、つながりに力点を置くというのはいい。 ・プランのイメージ図は、分かりやすく、親しみやすい。 <p>留意したいのは、ひと→くらし→まちと進めるように見えること。人によっては、まちの健康があって、ひとの健康につながる場合もある。図はこのままでいいが、勘違いする人がいるかもしれないことに気を付けてほしい。</p>		

3 添付資料

- (1) 第2次スマートウェルネスあさひかわプラン
- (2) 第2次スマートウェルネスあさひかわプラン概要版

No	寄せられた意見	意見に対する市の考え方
1	<p>きめ細かな素晴らしいプランだと思います。</p> <p>このプランの活用において健康づくりに興味関心が低い人たちや若年層、高齢者など、情報入手手段が異なる人たちへの情報発信の必要性について触れられていますが、これらの人たちの背景の分析が重要ではないかと思えます。</p> <p>アンケート等で興味がないと答えた場合のさらなる、質問内容の検討及び、それらの人たちの興味、生活環境、行動等について分析することでアプローチ方法が見つかる可能性もあるかと思われま。</p> <p>個人の特性に応じた健幸づくりにおいて、子供の項目のみ、食生活を支援するという文言がありますが、働き世代・高齢者・女性など、各項目に食支援があったほうが良いと思えます。</p> <p>以上、ご検討の程、よろしくお願い致します。</p>	<p>各種イベントやアプリなど、様々なアンケートの機会において、健康づくりに興味関心が低い人たちの背景等を引き出せるような設問内容を検討していくとともに、今後の取組の中でも、興味関心が低い人たちの興味を引き寄せるアプローチ方法について、検証してまいります。</p> <p>個人の特性に応じた健幸づくりについては、働き世代・高齢者・女性の健幸づくりの主な取組として、食支援に関する記載を追加します。各世代等に応じ、食育推進計画とも連携を図りながら食支援に取り組んでまいります。</p> <p>(追加部分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 働き世代の健幸づくり <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児健康診査を活用した保護者向けの食生活を支援するための取組 ・SNS 及び飲食店等を活用した食育情報の発信 ■ 高齢者の健幸づくり <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の特性を踏まえた食生活を支援するための取組 ■ 女性の健幸づくり <ul style="list-style-type: none"> ・女性の特性を踏まえた食生活を支援するための情報発信

No	寄せられた意見	意見に対する市の考え方
2	<p>第3次健康日本2 1旭川計画とは理念を共有し、本プランでは、ポピュレーションアプローチに寄り健幸作りの裾野を広げ、特に若い世代や働き世代の健康意識の向上に取り組む。健康作りに興味関心が低い人達や若年層、高齢層等情報入手手段が異成る人達それぞれに情報が伝わる様、様々な媒体を活用した情報発信を強化して行く必要が有る。季節を問わず、健幸作り活動が出来る様、施設等の利活用の推進に取り組む必要が有る。</p>	<p>頂いた御意見は「第2次スマートウェルネスあさひかわプラン（案）」で示しました内容と概ね同じであり、方針に賛同いただいたものと考えます。</p>
3	<p>ウェアラブル端末やアプリ等テクノロジーも活用したPDCAサイクル推進の強化する。乞うした取組は well-being の向上にも資する事と成るとされている。又、基本的な方針の下、本市で策定した第3次健康日本2 1旭川計画（令和6年度～令和17年度）では、新たな視点として、自然と健康に慣れる環境作り、ライフコースアプローチ、ICT の活用を掲げた。平均歩数に付いては、「旭川健幸アプリ」を令和6年度から運用し、運用開始時の令和6年度との比較において、令和7年度の平均歩数はいずれの月も増加している。</p>	<p>頂いた御意見は「第2次スマートウェルネスあさひかわプラン（案）」で示しました内容と概ね同じであり、方針に賛同いただいたものと考えます。</p>
4	<p>健康のために活動機会を増やしたりサポートも大事ですが、バランスの取れた食事をするにもお米すら高止まり状態、野菜や果物も買えません。売られている食品も大量の添加物や農薬では病気になります。体を温めるための暖房費まで削る状態です。健康を維持するための基本を無視しては本末転倒です。皆さんお金がないのです。税金を安くし物価も下がらなければ活動もそれらに対するサポートも意味がありません</p>	<p>頂いた御意見のとおり、社会的・経済的要因による健康格差を縮小していくことは、健康寿命の延伸の観点からも重要な課題であると認識しております。</p> <p>国は社会的な環境の差によって生じる健康格差をめぐる問題の解決に向けた取組を進めているところであり、本市におきましても頂いた御意見を参考とし、日常生活の中で健康を意識した行動を選択できるよう情報発信を強化するなど、誰もが取り組める健幸づくりを念頭に置き、本プランを推進してまいります。</p>

No	寄せられた意見	意見に対する市の考え方
5	<p>個人の特性に応じた健幸づくりとして、様々なプロジェクトが提示されていますが、この中にできれば「障がい者の健幸づくり」も加えていただければと思います。</p> <p>障がい者も健常者と同様に「健幸に生きる権利」を持っている訳ですから、そういった障がい者の特性に応じた健幸づくりについてのプロジェクトがあっても良いはずです。</p> <p>第8次総合計画や第5期地域福祉計画、更に第5次障がい者計画とも連携・調和を図ったプロジェクトを期待します。</p>	<p>本プランは、市の障がい福祉計画、地域福祉計画についても連携する関連計画に位置付け、障がいのある方を含むすべての人が健幸づくりに取り組むことを目指しており、共通方針（2）「協働による環境の整備」にその旨を掲げています。</p> <p>御意見を頂きました「個人の特性に応じた健幸づくり」については、国の健康日本21（第三次）を踏まえ、年齢、性別及びライフステージ（人生の段階）といった状況に応じた取組を整理しています。</p> <p>障がいのある方の特性は、障がいの種別や個々人によって大きく異なるため共通の取組を整理するのは難しいことから、本プロジェクトの中では、様々な身体状況等の方にも取り組めることを念頭に、スポーツに参加できない方も観戦という機会を通じて外出や参加を促すほか、パラスポーツやニュースポーツ、レクリエーション活動の推進や公園のバリアフリー化に取り組むこととし、障がい者の健幸づくりを推進していきます。</p> <p>頂いた御意見を参考とし、関係部局や関連計画とも連携・調和を図りながら、障がいのある方にも健幸づくりに取り組んでいただけるよう本プランを推進してまいります。</p>